

京都市立西京中学校・高等学校訪問

日 時： 平成25年11月27日 13:00～15:00

訪問者： 林 直樹 不破真之介

対応者： 田頭 教頭（高校）

1 学校の状況

- (1) 中学からの進学者（内進生）と高校からの進学者（外進生）の違い（生徒の学力、教育課程問）
 - ・高校は1 学年7 クラス。内進クラス3、外進クラス4 で募集する。高2 よりは内進・外進を混合する。
 - ・中3 後期より先取り学習を実施（高校教員も支援）。
- (2) 生徒の通学地区
 - ・中学は京都市内より通学。高校は府下全域より通学。
- (3) 中学・高校間の交流（会議、特別活動、人事等）
 - ・職員室は同じ。職員会議は合同で実施。

2 設置前の準備内容

- (1) 設置前の広報（説明会やパンフレット）
 - ・同窓会の支援でパンフレットを作成。
- (2) 設置に関わる推進委員会のあり方
 - ・中高併設に先立ち、校内に準備室を開設。専門の係が常置。

3 設置による影響について

- ・商業高校が母体であったが、中高併設の進学校への転換は比較的スムーズに行われた。
- ・母体となった商業高校は名門であり、同窓生には著名な企業家が多い。「グローバルな企業人育成」を目標にかかげており、同窓会や企業、地域、保護者から支持を得ている。
- ・学習塾対象にオープンキャンパスを行う。また、学習塾に教師が出向いて生徒・保護者向け説明会を開催。

4 受験・学習指導への取り組み

- ・ほぼ全員がセンター試験を受験。難関大学を中心に国公立大を目指す。
- ・生徒の8 割が部活動に参加。毎日7 限授業、部活動は下校時刻までの2 時間で実施。陸上ではインターハイ優勝者を出すほどの実績を挙げる。
- ・家庭学習3 時間を課し、それを前提に授業が進められている。
- ・土曜講座（年15 回程度）はテストを実施。追試は翌週の平日に行われる。
- ・部活動は18:30 で終了。そのあと19:30 まで学校に残って自習してもよい。スクールチューター（おもに西京高卒の現役京大生）が勉強の相談にのる。

5 キャリア教育の実践状況

- ・「未来社会を創造するグローバルリーダーシップの育成」が教育目標であり、そのためにエンタープライズ科が設置されている。エンブラ教育と称される豊富な活動によって、学校全体がキャリア教育を実施しており、この高校の特色をなしている。
- ・エンブラ教育の具体的な内容には、英語コミュニケーション能力の育成、情報教育の推進、「知の甲子園」への出場（10 年連続決勝戦出場）、学習合宿等がある。

6 大学進学状況

- ・京大、阪大、神大といった関西地区の難関国立大学への志向が強い。昨年度は京大合格者29 名（うち現役生17 名）、阪大合格者19 名（うち現役生17 名）、神大合格者26 名（うち現役生27 名）。